

1 令和3年度事業報告書及び事業報告の附属明細書

(1) 事業体系

公益財団法人福岡よかトピア国際交流財団は、アジア太平洋博覧会-福岡'89の成功を記念するとともに、市民一人ひとりが多様性を認め合いながら国際的な相互理解を深める多文化共生社会の実現に寄与し、もって、地域の発展と国際平和に貢献するという当財団の目的に向けて、下記の4つの柱に基づき各種事業を実施した。

① アジア太平洋博覧会-福岡'89を記念する事業

アジア太平洋博覧会-福岡'89を記念する事業として、福岡アジア文化賞の共催及びアジア太平洋こども会議への助成を行う。

② 市民の国際交流を促進する事業

市民の国際理解・国際協力への意識の高揚を図り、国際交流を推進するため、ボランティア交流推進、語学等を通じた国際理解、国際交流団体のネットワーク推進等を行う。

③ 在住外国人及び外国人学生を支援する事業

外国人にも住みやすく活動しやすいまちにするため、窓口相談や各種情報提供をはじめ、在住外国人等への支援を行う。

また、福岡都市圏で学ぶ外国人学生が安心して勉学に励むことができるように、留学生宿舎の管理運営や外国人学生支援を行う。

④ グローバル人材を育成する事業

国際社会で活躍できるグローバル人材を育成するため、奨学金の支給や留学生と企業との交流サロン等を行う。

(2) 事業報告

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の影響により、令和2年度に引き続き、事業の一部について、やむを得ず休止したものの、オンラインの特性を活かした新たな取組みや実施方法等の見直しを行い、「ウイズ・コロナ」や「アフター・コロナ」を見据えて事業を推進した。

① アジア太平洋博覧会-福岡'89を記念する事業

ア 福岡アジア文化賞

感染症の影響により、授賞式は関係者のみで執り行い、ライブ配信を行った。秋篠宮皇嗣同妃両殿下もオンラインでご視聴になられた。

また、市民フォーラムや学校訪問にも初めてライブ配信を取り入れたことで、多くの市民の参加につながった。

(ア) 主催 福岡市、(公財)福岡よかトピア国際交流財団

運営母体 福岡アジア文化賞委員会

事務局 福岡市総務企画局国際部内

(イ) 授賞式 9月29日、ホテルオークラ福岡

(ウ) 市民フォーラム 大賞(10月13日、共催:九州大学)

学術研究賞(10月9日、共催:福岡大学)

芸術・文化賞(10月2日、共催:福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ実行委員会)

- (エ) 学校訪問 大賞 1校(中学校、9月30日)
学術研究賞 1校(大学、10月8日)
芸術・文化賞 1校(高等学校、9月30日)

イ 「アジア太平洋こども会議・イン福岡」助成

インターネットを活用し、海外参加者と国内参加者とのオンライン交流事業等を開催した「BRIDGE KIDS PROGRAMS 2021」への助成を行った。

(ア) 主催 NPO法人アジア太平洋こども会議・イン福岡 (APCC)

(イ) 事業内容

- a BRIDGE Virtual Summer Camp (交流事業)
参加団体 24団体 (20か国・地域、日本を除く)
参加人数 381名
- b BRIDGE Support (サポート事業)
ボランティア登録促進、支援の会新規会員拡大、医療サポート体制整備 等
- c BRIDGE CLUB International Organization (BCIO (ブリッジクラブ 国際組織))
APCC 参加国・地域に同窓会組織を設立し、プログラムを推進
- d 情報提供事業
APCC のノウハウ等を教育現場での活用するコンテンツを企画・開発

② 市民の国際交流を促進する事業

ア 国際交流活動助成

福岡市民の国際交流を支援し、福岡市の国際化を推進するため、民間団体の国際交流事業等に対する助成として1団体に助成(一般型)を行った。

(ア) 制度概要

a 国際交流活動助成

市民の国際交流、国際理解、国際協力等に資する活動を行う団体を助成

【一般型】 助成対象経費の5割以内で、1件20万円まで

【チャレンジ応援型】助成対象経費の8割以内で、1件10万円まで

b 国際交流活動人材育成助成

対象団体の運営従事者が、当該団体の発展または目的達成のために必要とする講座・セミナー・研修会等を受講する場合の受講費用・学費、教材費、交通費、宿泊費等を1団体あたり、年間2万円まで助成

(イ) 令和3年度実績

応募件数: a 国際交流活動助成 【一般型】2件 *うち1件審査前に取り下げ
【チャレンジ応援型】1件

b 人材育成助成 0件

採択件数: a 国際交流活動助成 【一般型】1件

助成金額: 44,330円

イ 外国人支援ボランティアバンク

地域住民と外国人の相互理解、国際交流を促進するとともに、福岡市内で生活または活動する外国人へ支援を行う「外国人支援ボランティアバンク制度」を令和3年4月に創設し、従来の語学ボランティアの紹介等と合わせて一元的なボランティア登録制度として、よりきめ細やかな外国人支援を行った。

登録者数 170名(延べ登録者数352名)

登録言語数 18言語

延べ活動者数 85名

(ア) ボランティアの種類

a 通訳・翻訳

- ・日本語から外国語または外国語から日本語への通訳・翻訳
- ・保育所や学校からの配布物、その他郵便物等の簡単な通訳・翻訳、日常生活の相談(チュータープログラム)

登録者数 131名

支援件数 22件(通訳・翻訳)、11件(チューター利用者)

b 交流支援

日本人と外国人の交流、外国人支援に関する事業等の企画・運営を支援

登録者数 128名

支援件数 2件

c 災害時外国人支援

災害時における情報の収集及び福岡市災害時外国人情報支援センター等からの外国人への情報伝達並びに防災力向上に関する活動の通訳・翻訳

登録者数 64名

支援件数 0件

d ホストファミリー

在福・来福の外国人を家庭に招待。宿泊・食事を共にするホームステイまたは宿泊を伴わないホームビジットを通じて、日本の文化、生活習慣等への理解や交流を深める機会を提供し、文化や習慣の学び合い、理解と友情の育成につなげる。

登録者数 29名

利用者数 ホームステイ 0名

ホームビジット 0名

(イ) 登録ボランティアによる行政情報発信

計13件の行政情報を延べ1,488名の登録ボランティアが発信

(ウ) ボランティア研修

ボランティア登録者に対し、通訳時の基本的な心構えや注意点、活動に必要な知識や情報を提供する研修を実施した。また、災害時外国人支援の登録者に対し、災害時対応等に関する研修を実施した。

実施回数 13回

参加者数 191名

(内訳) 全員を対象とした基礎研修:8回(107名)

行政書士通訳専門研修:3回(53名)

災害時通訳翻訳専門研修:2回(31名)

ウ 語学等を通じた国際理解

(ア) 留学生から学ぶ外国語教室

市民の国際交流の推進にあたり、留学生を講師として、交流の有効な手段の一つである「言葉」の習得を手助けする教室を開催した。これにより、様々な言語で日常会話ができる程度の語学力を身に着けるとともに、言葉の学習を通じて国際理解・国際交流を深める機会を提供した。

- a 共 催 福岡市
- b 開催期間 7月～12月(うち、感染症の影響により、8月から9月にかけて開催中止)
- c 内 容 中国語、韓国語、ベトナム語等8言語、11講座を実施
- d 定 員 各クラス16名
- e 講 師 福岡都市圏の大学・短大に在籍する、または福岡市内に在住の留学生
- f 受講者数 140名

※留学生から学ぶ外国語教室・番外編

a オンラインで学ぶカザフ語教室

- ・期 間 令和3年10月15日～11月19日
- ・内 容 オンラインで1回20分間のマンツーマン授業を各人4回実施
- ・参加者数 4名

b 来て見て楽しんでタイの魅力

- ・開催日 令和4年1月8日
- ・会 場 福岡アジア美術館あじびホール
- ・内 容 旅行で役立つタイ語会話の練習、タイ国政府観光庁によるタイ観光情報の提供
- ・参加者数 57名

(イ) フランス語講座

福岡市の姉妹都市であるフランス・ボルドー市との交流を促進するため、アンスティチュ・フランセ九州と共催でフランス語講座を行い、フランス語を習得する機会を市民に提供した。

- a 主 催 アンスティチュ・フランセ九州
- 共 催 (公財)福岡よかトピア国際交流財団
- b 事務局 アンスティチュ・フランセ九州内
- c 実 施 年4回(春、夏、秋、冬) 各3か月
- d 講座数 268講座
- e 受講者 延べ2,220名

(ウ) 外国人による日本語スピーチコンテスト

外国人に日本語を学ぶことを奨励するとともに、日本人と外国人の相互交流・相互理解の場を提供するため、日本語スピーチコンテスト実行委員会との共催でコンテストを開催した。なお、コンテストの様様については、一定期間、動画配信を行った。

- a 主催 日本語スピーチコンテスト実行委員会
構成団体 日本語学校及び日本語教室 17団体
共催 (公財)福岡よかトピア国際交流財団、福岡市、
福岡外国人学生支援の会
- b 事務局 (公財)福岡よかトピア国際交流財団内
- c 開催日 令和3年10月16日
- d 会場 福岡市市民福祉プラザ1階 ふくふくホール
- e 出場者 13名
- f 来場者 76名
- g 動画配信 令和3年10月21日～12月31日
- h 視聴回数 3動画 合計755回

(エ) 国際理解教育講師派遣

青少年の国際理解の推進・国際力の育成を目的として、福岡県内の小・中学校等へ留学生等を講師として派遣した。

- a 主催 福岡国際理解教育講師派遣事業協議会
構成団体 福岡県、福岡市教育委員会、北九州市教育委員会
(公財)福岡よかトピア国際交流財団
(公財)福岡県国際交流センター
(公財)北九州国際交流協会
- b 事務局 (公財)福岡県国際交流センター内
- c 実施時期 令和3年4月～令和4年3月
- d 派遣回数 11校・13回(福岡市内)
- e 参加者数 2,597名(福岡市内)

エ 国際交流団体のネットワーク推進等

(ア) 福岡国際関係団体連絡会(FUKU-NET)

福岡都市圏の国際交流・協力を行う様々な団体のネットワーク組織で、各団体間の連携を図り、地域の国際化の推進に寄与することを目的として、総会・連絡会及び加盟団体を紹介するパネル展などを開催した。

- a 主催 福岡国際関係団体連絡会
構成団体 (公財)福岡よかトピア国際交流財団等66団体
- b 事務局 (公財)福岡よかトピア国際交流財団内
- c 実施時期 総会 4月
連絡会 4月、6月、8月、10月、12月、2月
パネル展 2月(福岡市役所1階多目的スペース)
- d 参加者数 延べ146団体・187名(会員参加141名、一般参加46名)
※オンライン参加を含む

オ 国際交流推進

(ア) 姉妹都市等との連携・交流

感染症の影響により、姉妹財団である釜山国際交流財団主催のイベントへの招待はなかった。

(イ) 福岡市国際会館まつり

地域住民と外国人住民の相互交流・理解を深めるきっかけづくりのため、平成29年より福岡市国際会館において開催してきた交流イベント「福岡市国際会館まつり」について、令和3年度は、感染拡大防止を考慮し、オンラインを活用した交流イベントとして開催した。

α 開催日 令和4年3月26日

β 参加者数 18名

(ウ) 子ども向け交流イベント

外国人親子と日本人親子が遊びやワークショップを通じて交流する場の創出と、子育て中の外国人が気軽に相談できる場の提供を目的に、オンラインによるプレイベントと、コロナ対策を講じたうえで、対面での親子向け交流イベントを開催し、けん玉の絵付け体験やインドネシア民族楽器の合奏、保健師による子育て相談等を実施した。

α 開催日

・オンライン交流会(プレイベント):令和3年8月26日

・あつまれグローバルキッズ!FCIF ファミリー秋まつり:令和3年11月21日

β 参加者 日本人・外国人親子、留学生など45名

カ 第13回アジア太平洋都市サミット開催

都市間連携等による都市問題の解決を目指すため、「危機から生まれた都市の可能性」をテーマに、第13回アジア太平洋都市サミットを完全オンラインで開催した。

(ア) 主催 福岡市、国連ハビタット福岡本部

運営母体 第13回アジア太平洋都市サミット実行委員会

構成団体 福岡市、国連ハビタット福岡本部、
(公財)福岡よかトピア国際交流財団、福岡商工会議所

(イ) 事務局 福岡市総務企画局国際部内

(ウ) 開催日程 10月26日、27日(2日間)

(エ) 参加都市 18か国・40都市

③ 在住外国人及び外国人学生を支援する事業

ア 一般相談・情報提供

国際交流・国際理解・国際協力に関する資料収集・情報提供並びに外国人住民への生活情報の提供・相談などを実施するとともに、より使いやすいホームページを目指し、トップページのデザインリニューアルやFacebookとの連携強化を図るなど、積極的な情報発信に努めた。

「福岡市外国人総合相談支援センター」においては、電話通訳サービスを含め22言語(やさしい日本語含む)で外国人等からの相談対応を行った。

(ア) 窓口相談・電話相談

相談件数(来所、電話) 1,686件(うち外国人 790件)

(イ) 4地点4者による電話通訳サービス及びタブレットを活用した相談対応

相談件数 37件

(ウ) 無料 Wi-Fi の利用提供

福岡市国際会館1階及び4階国際交流フロア

(エ) 図書、新聞、パンフレット等の資料収集・提供

図書貸出数 65冊

(オ) 外国語情報紙(英・中・韓)の発行

英語版 2,500部/隔月、中国語・韓国語版 各1,500部/隔月

(カ) ホームページ、Facebook 及びメールマガジンによる情報提供

Facebook での情報発信件数 284件

メールマガジン(月1回発行)登録者数 1,677名

(キ) にほんご Class Map の発行

にほんご Class Map 3,000部(令和3年9月発行)

イ 外国人専門相談

外国人住民の生活上の諸問題について、専門家による無料相談会を実施した。

(ア) 外国人法律相談

法律、慣習や文化の違いから、紛争解決に関して一般的に弱い立場に置かれがちな外国人に対し、福岡県弁護士会と共催で法律的な助言、情報提供を行い必要に応じて通訳を手配した。予約制で月2回(第1土曜日・第3水曜日)開催。

a 実施回数 8回

b 相談者数 39名(17か国)

(イ) 外国人のための入国・在留・国籍に関する相談

外国人の在住のために不可欠な在留資格や住民登録等の行政手続きに関し、福岡県行政書士会との共催で情報提供と助言を行った。英語と中国語の通訳が常駐し、予約不要で月1回(第2日曜日)開催。

a 実施回数 12回

b 相談者数 64名(22か国・地域)

(ウ) 外国人心理カウンセリング

言葉の問題や生活環境の違いなどから精神的問題を抱える外国人を対象に、臨床心理士(財団職員)が、問題の解決に向けた心理カウンセリングを、日本語または英語で行った。予約制で週3回(月・火・木曜日)開催。

a 実施回数 延べ291回

b 相談者数 48名(18か国)

ウ 外国人向け広報ラジオ番組

外国人に対して、財団が行う事業や福岡市国際会館のPRを、多言語ラジオ放送であるラブエフエムを通じて、英語・中国語、韓国語・ネパール語・ベトナム語の5か国語で広報した

a 放送 毎月第2週又は第3週の月曜～金曜日の8:54頃から5分間

エ 外国人住民のための日常生活アドバイス

外国人住民の快適な生活を可能にするとともに、日本人住民と外国人住民双方の暮らしの安心感を高めるため、新たに福岡に来た外国人を対象とした自転車の交通ルール、ごみ出しルール、防犯に関する出前講座を行ったほか、福岡県警の協力を得て外国人学生歓迎交流事業のイベント会場等においてもミニ防犯講座を行った。

また、外国人住民を対象としたDVD、インターネット動画による日本での生活に必要なルール、暮らしのヒントや防災知識の普及を行った。

- (ア) 実施主体 福岡市(市民局、環境局、各区役所)、福岡県警察
- (イ) 実施件数 1件(西鉄国際ビジネスカレッジ専門学校)
- (ウ) 受講者数 65名

オ 国際交流フロア及び留学生宿舍管理運営

福岡都市圏の大学に在籍する外国人学生に比較的安価で良質な住居を提供するとともに、留学生及びその他の外国人住民と市民との交流、並びにその他の国際交流の促進に資する事業を行う場を提供した。

国際交流フロアの提供にあたっては、各会議室に卓上パーテーションを配置するとともに、利用人数の制限や利用中の換気、利用後の机・椅子等の消毒、利用団体にチェックリストの記入・提出を求めるなど、感染症の予防対策を徹底した。

また、施設の老朽化や感染防止対策として、国際交流フロア及び留学生宿舍の施設の一部改修や備品購入等を行った。

- (ア) 施設概要 4階 国際交流フロア(貸会議室等 5室)
5階 世帯用宿舍(2K 5戸)
6-9階 単身用宿舍(1R 54戸)

- (イ) 国際交流フロア利用件数 788件

利用者数 5,560名

※緊急事態宣言等により、5月12日~6月20日、及び8月9日~9月30日は利用中止

- (ウ) 施設改修 国際交流フロアトイレ改修、留学生宿舍洗濯機取替え ほか

カ 「あったか福岡」外国人学生支援

外国人学生が有意義な生活を送ることができる環境づくりを推進するため、「福岡外国人学生支援の会」と共催で事業を行い、外国人学生の生活の安心感の向上を図った。

- (ア) 主 催 福岡外国人学生支援の会
共 催 (公財)福岡よかトピア国際交流財団
- (イ) 事務局 (公財)福岡よかトピア国際交流財団内
- (ウ) 実施内容

α 日本語おしゃべり交流会

オンラインによる日本語おしゃべり交流会を開催し、帰国した留学生や入国できない学生も参加しやすいように、通常の平日午後の開催に加え、休日の午前中に開催する特別編も3回行った。

- ・実施回数 12回（月1回）
- ・参加人数 222名（うち海外からの参加者29名）
- b 外国人学生が語るふるさとの街と福岡（毎月第3木曜日）**
 - ・実施回数 9回（4月～7月、10月～12月、2月、3月）
 - ※コロナの影響を回避するため、オンライン開催を1回試行した。
 - ・参加人数 220名
- c 外国人学生歓迎交流事業**
 - ・開催日 令和3年11月7日
 - ・内 容 福岡市国際会館をスタートし、櫛田神社や福岡アジア美術館、冷泉公園等を、留学生と日本人の混合チームがクイズを解きながら歩いて見学。その後、オープントップバスと那珂川リバークルーズの2コースに別れて体験し、福岡の街を楽しみながら交流を深めた。
 - ・参加人数 50名

キ 日本語ボランティア養成講座

市民センター（各区生涯学習推進課主催）や民間ボランティア団体が運営している日本語教室（市内48教室）において、外国人住民の日本語学習を支援するボランティアの養成講座を実施するとともに、経験の浅いボランティアを対象に、文法や発音等の実践活動をテーマとしたスキルアップ研修を開催した。

（ア）養成講座

- a 実施時期 令和3年8月10日～10月14日（90分×10回）
- b 会 場 9回オンライン、1回対面
- c 受講者数 24名（修了者数 23名）

（イ）養成講座プラス

- a 実施時期 令和3年10月28日～11月25日（90分×4回）
- b 会 場 福岡市国際会館4階
- c 受講者数 延べ39名

（ウ）スキルアップ研修

- a 実施時期 令和4年3月16日
- b 会 場 福岡市国際会館4階
- c 受講者数 25名

ク 地域の国際交流

日本人と外国人が同じ住民として互いを尊重し、協力し合う多文化共生社会の実現のため、地域での相互理解・国際交流の促進を目的に、共生コーディネーターが区役所や自治会等と連携し、交流事業を実施した。

また、令和3年度からスタートしたボランティアバンクやチュータープログラムの周知を図るため、区役所・自治会・公民館担当者を対象に15回にわたり、告知と活動促進の依頼活動を行った。

（ア）令和3年度の地域での国際交流事業実績

- a 実施件数 3件（春吉公民館、香住丘公民館、三苦公民館）
- b 参加者数 105名

ケ 災害時における外国人支援

災害時における外国人住民への情報提供などを円滑に行うため、福岡市との協定に基づき、福岡市が財団内に設置する「福岡市災害時外国人情報支援センター」を運営する。

(ア) 設置回数 0回

(イ) 研修・設置訓練

α 災害時三者通話操作研修

災害時外国人情報支援センター開設時に、災害に対する多言語での電話相談に速やかに対応できるよう、三者通話操作研修を実施。

・開催日 令和3年6月3日、4日(2日間に分けて実施)

・会場 福岡市国際会館

・参加者数 財団職員、国際部職員 17名

β 災害時外国人情報支援センター設置訓練

災害時外国人情報支援センターの運営方法について理解と習得を図ることを目的として設置訓練を実施。

・開催日 令和3年8月11日

・会場 福岡市国際会館

・参加者数 財団職員、JICA職員 12名

コ ネパール人のための入管セミナー

ネパール人コミュニティからの要請を受け、在留資格等に関するネパール人対象のセミナーを開催し、制度の理解不足による不本意な帰国や法令違反が発生しないよう支援した。

(ア) 開催日 令和3年10月14日

(イ) 会場 福岡アジア美術館あじびホール

(ウ) 内容 「留学」と「就労」の2つに分けて、福岡出入国在留管理庁の審査部門担当者より在留中の注意事項や必要な手続きについて説明と質疑応答を実施した。

(エ) 参加者 50名

④ グローバル人材を育成する事業

外国人留学生向けの奨学金については、感染症の影響で留学生が来日できない場合を考慮し、対象者の要件緩和や、来日できない留学生への海外送金等を行ったほか、奨学生決定後の定期面談等も、感染症の状況に応じて、対面又はオンラインで実施し、コロナ禍における生活全般へのサポートを行った。

ア 福岡市国際財団奨学金

海外から新たに福岡へ留学する学生を対象とすることを原則としつつ、感染症の影響により留学生が来日できない現状に鑑み、既に来日し、福岡での就職・創業を希望する外国人留学生も対象とするよう要件を緩和し、留学生が安心して福岡で学ぶことができる環境を整え、留学生と市民との交流の機会を増やし、地域の国際化と地元定着の促進に寄与するために奨学金を給付した。

(ア) 給付金額 50,000円/月

(イ) 給付人員 27名

(ウ) 給付対象期間 学部4年間/修士2年間

イ よかトピア留学生奨学金

前身の(公財)よかトピア記念国際財団からの寄付金をもとに、地場企業での就業体験を通じた海外高度人材の地場企業への定着と、地域の国際化・活性化に寄与するため、福岡で就業を希望する留学生に地場企業での就業体験の機会を提供するとともに、奨学金を給付した。

(ア) 給付金額 60,000円/月

(イ) 給付人員 2名

(ウ) 給付対象期間 1年間

ウ 留学生育英奨学金

福岡都市圏で学ぶ留学生が安心して勉学に励むことができる環境づくりを、生活資金面から支援するため、団体や企業、個人からの寄付金により奨学金を給付した。

令和3年度は、新たに2つの奨学金が創設され、支援対象が広がった。

また、ミャンマー留学生向け奨学金については、寄付者の提案により、通常の寄付者訪問に代えて、市民を対象にしたミャンマー交流イベントを開催し、ミャンマーへの理解と親しみを感じてもらう場を設けた。

(ア) 給付金額 500,000円/年または300,000円/年

(寄付者の希望により決定)

(イ) 給付人員 16名

(ウ) 給付対象期間 寄付者の希望により決定(半年単位以上)

(エ) 奨学金創設者 9団体

(オ) 新たに創設された奨学金

・ 田浦ネパール奨学金

・ 軍事クーデターにより帰国困難となったミャンマー留学生のための有志の会奨学金

(カ) ミャンマー交流イベント

a 開催日 令和4年1月22日

b 会場 福岡アジア美術館あじびホール

c 内容 奨学生によるミャンマー文化の紹介や、民族楽器・民族衣装、遊びの体験やミャンマーの写真の展示等

d 参加者 56名

エ 日本人大学生留学奨学金(スタートアップ奨学金)

日本人大学生の留学を促進するとともに、国際社会で活躍できるグローバル人材として育成し、さらに福岡の国際競争力を強化する人材として福岡へ定着させるため、大学卒業後に福岡で創業・就職を希望する日本人大学生の海外留学へ奨学金を貸与した。

また、当該奨学金受給者の福岡での創業・就職を促進するため、福岡商工会議所と共同で地場企業との交流会、留学前・留学中・帰国後に就職活動支援や研修等を行うフォローアップ事業を実施した。

(ア) 貸与金額 最大1,200,000円/年

(留学先及び期間により異なる。福岡で創業または就職した場合は返還免除。)

(イ)貸与人員 6名

(ウ)留学前研修 令和3年8月1日

※その他、フォローアップやキャリアサポートを随時実施

オ 留学生のための就活・創業トークセッション

福岡での就職・創業を希望する留学生を対象に、地場企業の人事担当者や外国人起業家、地場企業に就職した元留学生をパネリストに迎え、「求められるグローバル人材とは？」をテーマとしたパネルディスカッションや、パネリストと参加者との意見交換会を開催し、留学生の福岡での就職・創業を支援する新たな機会を創出した。なお、当日の様子は、第13回アジア太平洋都市サミット特別版サイドプログラムとしてライブ配信を行った。

(ア)開催日 令和3年10月26日

(イ)会場 スタートアップカフェ

(ウ)参加者 留学生24名、企業等16名(15社)

ライブ配信視聴者123名

(エ)共催 福岡外国人学生支援の会

(オ)後援 福岡県留学生サポートセンター運営協議会

カ 留学生と企業との交流サロン

福岡で就職を希望する留学生と、グローバル人材としての留学生に関心を持つ地場企業を対象に、留学生が日本及び福岡で働きたい理由や、地場企業が留学生に期待すること等について自由に話し合う交流会を経済団体等と共催で開催した。

(ア)実施日 ①令和3年11月25日

②令和3年12月7日

(イ)参加者 ①留学生19名、企業18名(16社)

②留学生9名、企業13名(13社)

(ウ)共催 ①福岡県留学生サポートセンター運営協議会、
福岡外国人学生支援の会、福岡・大連未来委員会

②福岡県留学生サポートセンター運営協議会、
福岡外国人学生支援の会、福岡県中小企業家同友会

(3) 事業報告の附属明細書

記載すべき事項は、ありません。

【理事会及び評議員会の開催状況等】

会議名	開催日	内 容
理事会	R3.4.1	議案審議（決議の省略による） ・理事の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦に関する件 ・「役員賠償責任保険」2021年度契約締結に関する件 ・評議員会の開催に関する件
評議員会	R3.4.1	議案審議（決議の省略による） ・理事の選任に関する件
理事会	R3.6.3	議案審議（決議の省略による） ・令和2年度事業報告及び決算に関する件 ・定時評議員会の開催に関する件
評議員会	R3.6.23	報告 ・令和2年度事業報告及びその附属明細書に関する件 ・中期経営方針に関する件 ・令和3年度事業計画及び収支予算に関する件 議案審議（決議の省略による） ・令和元年度貸借対照表、正味財産増減計算書、これらの附属明細書及び財産目録に関する件 ・役員の任期満了に伴う次期役員の選任に関する件
理事会	R3.6.23	議案審議（決議の省略による） ・理事長1名選定に関する件 ・専務理事1名選定に関する件
理事会	R4.3.15	議案審議 ・令和4年度事業計画及び収支予算案等に関する件 ・保有債券の中途売却に伴う新規債券の購入に関する件 ・債券運用基準の改正（案）に関する件 ・「役員賠償責任保険」の令和4年度契約締結に関する件